midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

January 2012 No.321-322

１月号の１枚：早稲田大学の学生を対象とした体験学校

［巻頭言］ 沈着・冷静に・勇敢に、前へ・・・・！

森の素人だからこそ見えることがある

昨年平成23年は、我が国だけでなく世界的にも大波乱の年であった。わが国では唯一、日本女子サッカー・なでしこジャパンの世界制覇が、全国民に生気をもたらしてくれた。この中心がミッドフィルダーの澤穂希選手であった。小柄な人物である。日本は米国に連戦連敗でこの小柄な女性は、それを克服するために米国に渡り身長差を補う方法を見つけて帰国した。この人の気迫とチームワークが世界を圧した。

被災地の人々の忍耐力と苦難に負けない逞しさを思うとき、何かをと当会の森活動から生み出した「緑のダム・森の積み木」 500個入り 45ケースと会員の熱い努力により募った義援金を大船渡市の15施設に届けた。被害の現場に立ち会って後、その報告会を開き当会は自然環境との調和を、一層真面目に真剣に取り組む意思を固めた。

わが国の林政は、荒廃の森林を立て直すため懸命に解決策を求めているが、なかなか困難な様相にある。当会としては、現場活動の中から何とかしてヒントを見つけ出したいと努力を重ねている。森に素人だからこそ見えることもあると思う。森の厚い壁を突破する事を“なでしこジャパン”の奮闘の姿に重ね合わせてみよう。

過日、相模原市・経済環境局の肝いりで「さがみはら森林ビジョン」を真剣に考える複数の市民団体と腹を割って話し合った。結論は、「民・産・官・学ー全ての人々との協働、前へ！」。その合意形成のため推進事務局を作って、３月に「さがみはら森林ビジョン・勉強会」を開く準備を始めた。これらを踏まえて、次のアクションを踏み出す。沈着・冷静・勇敢に歩を進めたい。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2012.01

第一日曜日の小原本陣の森、定例活動は行いません。

1月18日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

12月4日（第一日曜日）

１２月に入り寒さも一段と厳しくなってきましたが、この日は天気にも恵まれForest Nova☆からは大学合格が決まった高校生を含め１２名が活動に参加しました。

この日は森に入る前に、小原の里の朝市にて私たちが普段イベントなどで出品している木の時計を一緒に売っていただくお願いをするため、集会場に立ち寄りました。お話をした結果、今月の１８日から朝市に出品出来ることが決まりました。

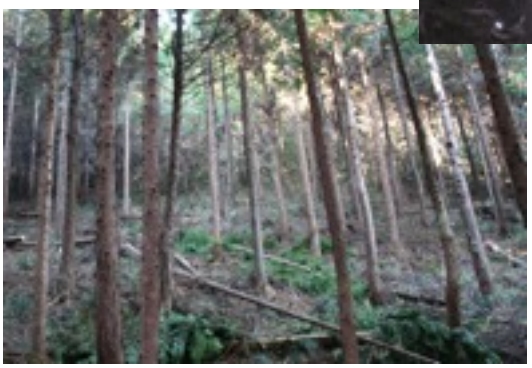
小原の森に入ると、橋を渡った先にある開けた場所に行くまでの径路に大きな倒木が２本ありました。そのため、午前中はその倒木の処理をする人と、前に造った径路の状況を確認し整備する人に分かれて活動しました。前に造った経路を見に行くと、そこにも倒木があったため、伐って土留めや径路の修正に使いました。こちらは女の子３人の作業でしたが、協力しながらなんとか木を移動させ無事作業を終えました。作業開始時間が少し遅れてしまったため、あっという間にお昼になりました。

お昼には山主さんが持って来てくださった椎茸を焼いて食べたり、お味噌汁を飲んで温まりました。

午後は、径路班と木工班に分かれて活動しました。径路班は１０人での活動となったので最初は５人ずつに分かれて作業しました。径路を造る場所までは、私が思っていたよりもスムーズに登る事が出来ました。しかし径路は階段にしない方が登りやすいのだと感じました。径路を造る場所に着くと、近くにも倒木が何本かあり、その木を使って径路を造りました。また、幹の途中で折れてしまった枯れ木も何本かあったので、枯れ木の伐倒も行いました。枯れ木の伐倒は、受け口、追い口がなかなか上手くいかず手こずりましたが、なんとか伐倒することが出来たのでよかったです。

活動後は、お誘い頂いていた小原地域の方のご自宅で開かれたピザパーティーに参加しました。窯で焼かれたピザは本当に美味しくて、活動の疲れも吹き飛びました。また、小原の方とお話をしたり、子供たちと一緒に遊んだり、貴重でとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。私はこれからもっと小原の方とお話したいと思いました。ありがとうございました。

吉崎　香代（Forest Nova）



[定例活動]若柳嵐山の森

12月18日（第三日曜日）

「バラエティ豊かな森へ」

2011年最後の活動日は，締めくくりにふさわしいバラエテイに富んだ一日！参加者は、高井戸中学校10名、ForestNova18名、生命の森宣言・東京5名、早稲田大学16名、一般参加28名。計77名。

今年のBIGニュースの一つでもある「高井戸中学生の参加：なみすけの森づくりプロジェクト！」。４月に区画を設定していたころと比較すると目を見張るような成果を出している！。宮村先生の細やかで、且つ大胆なリードで女子がロープで引っ張りゃ、男子が鋸で伐り、掛かり木にならずドウと倒れる。枝を切り落とす時の「かかれ！」の声も頼もしかった。！

なみすけの森づくりプロジェクトで取り組む斜面

大学生のForestNovaは径路つくり。間伐そしてイベントでの小学生との協働作業が素晴らしい。学生たちの進歩を「凄いねえ～！」と石村さんも感激！して目を細めてる。

大人も負けていない！？。森林整備班の径路つくりは注文受けます（小林）と自賛する位の出来！。森の中が歩きやすく全て繋がってきてシャベルが板についている森男！。

生命の森宣言・東京班のＡ地区がすっかり見渡せる森になり、経路もForestNovaの森へも繋がり、スイスイ行けます。

金山先生率いる個性的な早稲田大学組は、間伐、簡易製材機などでの製材、活発に取り組む。午後は斉藤体験学校長やForestNovaなどとともにみんな入り混じりカブトムシ牧場の新設に励む。ロゴソールや杭打ちなど女子学生のパワーが目立った！。

年のラストにふさわしく、大掃除など様々な作業が終わり終礼後は、石村夫人とお手伝い班の愛のこもった熱いぜんざいとお漬物に舌ヅツミ打ち！。心もホッカホカして今年の活動を終えた一日でした！。

伊藤小夜子（本会、会員）

左上：カブトムシ牧場をつくる
左下：チェアシティ展のベンチを活用

右上：活動後におしるこが用意されました
右中：ナンテンの実
右下：体験学校＋木工班

[報告１]
湘南の森活動報告

11月26日

11日の定例作業が雨で中止となったので、一か月ぶりの作業となりました。

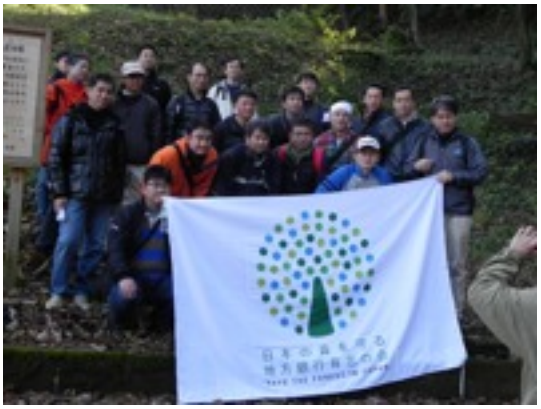
地域全体を歩いたところ、台風の後始末で伐採されたり、 折れて落下した樹木類が片づけられないで放置されていることが判明、 それらの整理をすることにしました。大きな枝を細断して斜面の下部まで運んで捨てる作業は、 力も根気のいる作業でしたが、森が段々ときれいになるのが励み、全員で汗をかきました。

午後からは一部のメンバーは物置の清掃と道具類の整理・整頓を実施しました。いよいよ今年も残すところ少なくなりました。

佐藤　憲隆（湘南の森）

完熟したシオデの果実

[報告２]
「日本の森を守る地方銀行有志の会」現地視察会、受け入れ報告



11月25日

日本の森を守る地方銀行有志の会「現地視察会」が、緑のダム北相模のホームグランドである若柳・嵐山体験学校で行われた。心配された天候も参加者の願いが通じたのか、秋晴れに恵まれた絶好の山日和(間伐日和)となった。

「日本の森を守る地方銀行有志の会」は森づくり活動の地銀情報ネットワークの一環として平成20年に横浜銀行始め8行で発足した。美しい健全な森林を次世代に引き継いでいくことに貢献していくことが使命であると認識し参加した地方銀行は現在63行に上る。そのうち山陰合同銀行など33行が山を所有している。この度の視察会は、立教大学特任準教授見山謙一郎氏とNPO木暮人倶楽部理事長の吉田就彦氏と交流のある石村理事長のネットワークから始まり、綿密な準備で実施された。
16行21名の他、環境省の三好一樹氏、浜銀総研の三枝康雄氏、見山氏の参加、緑のダム北相模から3名、計27名の参加で行われた。

当日、東京駅に集合した有志の会メンバーは貸切バスで到着。相模湖駅集合組の5名が嵐山グランドに全員が合流した。石村理事長の挨拶のあと参加者の紹介を行い、川田氏の案内で森林内を視察した後、10:00から間伐体験を林道脇で行った。たまたま、フォレストノバの学生が桂北小学校の生徒と親を対象にした間伐体験学校と重なり、子どもたちの活動を目のあたりにした会のメンバーの注目を集めていた。われわれ有志の会メンバーは、二班に分かれ、間伐する木の選定から始め、枝掛かりの危険や周囲の安全を確かめ、倒木させる方向を皆で決めて、手鋸で伐採を行った。微妙な空間をめがけ緻密な倒木を目指したが、枝掛かりをしたので、ロープを架け、全員で力を合わせて引き何とか倒す事が出来た。大汗をかき倒れ掛かる人もいて、真剣の中にも笑顔で、鋸を交代しながらの作業だったが、サラリーマンの普段の運動不足が露呈した身体測定会場と化した間伐体験であった。

そのあと、相模湖交流センターに移動し石村理事のプレゼンで始まった。日本林業の現状と緑のダム北相模の相模川流域構想について状況説明を行った。「かどや特製弁当」を食べたあと、「金融勉強会」の開催され、環境省の三好一樹氏より「J-VER制度」について我が国の地球温暖化対策の話が80分あり意見交換が活発に行われ、さらに貴重な資料も頂く事が出来た。最後に今回視察会の幹事役である山陰合同銀行の井上光悦氏より、地方銀行からみたJ-VERを活用した「ごうぎん希望の森」活動についての話が魅力的だった。午前中の疲れにも関わらず、眠る人も少なく時間通り勉強会が終了した。

「かどや」での懇親会は皆様が遠方のため、貸切バスで一路帰宅の途につかれたが、浜銀総研の三枝部長は懇親会に参加頂き、県市など自治体への折衝等において、緑のダム活動に協力して頂けることになった。参加者皆様の協力もあり、新しいチャネルとの交流が開け、今後が期待される実りのある活動ができました事を感謝し報告とします。

小林　照夫（本会、会員）

[報告３]桂北小学校の授業を通して

Forest Novaでは、昨年から桂北小学校で授業をさせていただいています。今年は4年生の担任の米山先生とお話しし、「地域の森で起きている問題に、関心を持たせたい」という趣旨の授業を行うこととなりました。

10月に、地域の森が抱える問題をテーマに授業を行い、雑木林や人工林は手を入れなければ維持できないということを4年生に教えました。後日、子どもたちが「自分たちも森のために何かしたい」といろいろ考えて計画書を作ってくれました。「嵐山にもっとたくさんの人に来てほしい！」を合い言葉に、森のことを知ってもらいたい、森に来て遊んでもらいたい、と一生懸命書いてくれた計画書。私たちも協力して実行に移しました。

子供たちから一番出た意見は、「人工林は間伐しなきゃいけない」でした。クラスの9人全員が一丸となってスギの木を間伐し、その木を使って生き物を紹介する看板や、ブランコ、イスを作っています。1月には、出来上がった作品を嵐山に設置します。4年生が自分たちの力で作った作品がどのように仕上がるのかとても楽しみです。

米山先生からは、4年生が徐々に森へ興味を持ち始めている、と聞いています。それは森の中だけでなく、学校という日常生活の中でも4年生に「森に何ができる？」と考えさせ、自分の力で計画を実行させる、ということができたからだと思います。これは私たちだけで出来ることではなく、米山先生のパワーと、活動を見守ってくださる桂北小学校、そして、ここに活動できる森があるということが合わさった結果だと思います。

小学生が「たくさんの人に森に来てもらいたい」と言って活動を進めていますが、私たちが一番森に来てもらいたいのはその子たちです。授業の中で終わりではなく、子供たち自身に森に関わるようになってもらいたいのです。

そんな中、最近4年生の子たちが活動日の夕方に遊びに来たり、12月には活動に1日参加してくれた子もいました。これは、今まで無かったことです。

―地域の子が、地域の森のために行動する。こんなことがたくさん広がってくれたら、森はもっと良くなるはずです。これが私の想像で終わらないように、来年も活動を継続させていきたいと思います。

緑のダムの皆様、桂北小学校の先生方、地域の皆様、今年一年間、活動を見守ってくださってありがとうございました。今後も子供たちが森でのびのび活動できますよう、ご協力お願い致します。

神宮　理沙（Forest Nova）

[報告４] 定例活動、参加者の感想から

私は12月18日、大学の教職課程の講義の1つである特別活動論という授業の一環で、森林ボランティアの活動を手伝って来ました。

相模湖に着くとまず感じたのは空気のきれいさでした。確かに冬場という事もあってかなり寒かったですが、とても空気がきれいでおいしかったのを覚えています。行く途中の森林にも捨てられているカンやペットボトルが見受けられ、なんだか悲しい気分になりました。

午前中は森林に入っての間伐作業でした。分け入った森林は人工樹林によって作られた森で、とても暗く寒かったです。とにかく暗かったです。こんなところで植物は育つ事が出来るのか？と感じました。やはり大木は切るのも難しかったです。大きなのこぎりを持ち出してきて、皆で交代に切断していきました。もう樹木が倒れる時はとにかく感動でした。初めてあんな間近で樹木の伐採を見る事が出来たので、すごく良い経験を積む事が出来たなと思います。

お昼は、ボランティアの方が豚汁を作ってくれて、おいしくいただく事が出来ました。しかし、自分は昼食を買い忘れてしまって、何も持っていなかったので、空腹のまま乗り切るしかないかなーと思っていたのですが、何とその日の活動を通して仲良くなった同じ班の女の子二人がおにぎりとサンドイッチをひとつずつ分けてくれたのです！その優しさには深く感動しました。仲間って大切だな、って思った瞬間でした。

午後の電動ノコギリを使っての作業は、危険が伴うという事でおじさんからたくさんの事を学ばせていただきました。「仕事をするときは一緒に作業をしている仲間の事を常に気遣う」や「相手を意識して、今何をしようとしていてどのような助けが必要なのかといったことを察してあげる」といった事です。作業を通じてたくさんの事を学ばせていただきました。最後の山の中の散策は未知の領域でとても楽しかったです！今まで見た事のない植物など新しい発見ばかりでした！残念ながら時間が無くて頂上まで行くことは出来ませんでしたが、最後に見た光景はとても美しく、今でも忘れる事が出来ません。後ろを歩く女の子が、山道を歩くのが苦手ということで、時折手をひきながら助け合うなど、一日を通して仲間のいる温かみを感じる事の出来た一日でした。

最後には仲良くなった4人でプリクラを撮ってご飯を食べて帰るなど、一日を通してたくさんのものを得る事が出来ました。仲間がいる安心感、今まで知らなかった森林の実態、勘違いしていたことなど、たくさんの事を学べたので、今塾で理科を教えている中3生に伝えてあげられればなと思います。とても楽しかったです、また機会があればぜひ参加したいなと思います！一日御世話になりました、ありがとうございました！

甲斐　正人
（早稲田大学、基幹理工学部）

[事務局からのお知らせ、お願い]

１月の若柳嵐山の森の定例活動後、新年会を相模湖駅前「かどや」にて１６時頃から予定しています。こちらもご参加ください。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版